

Link Web IPU

このマークの記事の詳細は
 岩手県立大ホームページに
 掲載しています。

URL / <http://www.iwate-pu.ac.jp/>



特集1

02

宮古短期大学部 開学20周年 将来への決意を新たに

CONTENTS

06 在校生紹介
 元気です県大生

08 特集2 トークセッション
 教員と学生による対話集Vol.3
**社会にプロテストする
 気概をもとう!**

10 特集3 県大生のシューカツ☆紹介します!
 ~IPUそれぞれの
就活STORY~

14 卒業生紹介
 夢を生きる・卒業生の今を知りたい

15 TOPICS

16 IPU通信





宮古短期大学部開学20周年・記念式典報告

将来への決意を新たに 地域に開かれた大学」として、 さらなる地域貢献をめざします。

中村慶久学長(記念式典式辞より抜粋)

本日、各界より多数のご臨席を得て、岩手県立大学宮古短期大学部の開学20周年記念式典を挙げてまいりました。私も教職員・学生一同にとって、この上ない喜びであります。これもひとえに、本学の発展と充実に温かいご支援をいただきました地域の皆様をはじめ、関係各位のご尽力の賜と、心から御礼申し上げます。

開学以来20年、本学は、「自然」「科学」「人間」が調和した新たな時代の創造を願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな人間性を備え、高度な専門性を身につけた自立的な人間を育成する大学を目指すことを建学の理念として、教育を進めてまいりました。教職員一同は、一丸となってこの理念を実現するため努力を重ねてまいり、現在までに1900余名の卒業生を社会に送り出しました。

開学以来「地域に開かれた大学」をモットーに積極的に地域貢献を図ってきております。地域の皆様と地域の諸問題を共有し、地域の発展に向けて共に考え、行動できるようなったことも、大学として誇りとすべき事でありました。地域と大学が一体となり、地域社会の問題を自らのものとして捉え、解決策を提案していこうとするならば、大学は力がなくてはなりません。我々は、覚悟だけでなく、自らを鍛え、力を蓄え、信念を以て行動できる大学を作る責任があると考えます。

私たちは、この20周年記念式典を単なる時間の区切りとしてだけでなく、将来への決意を新たにすべき機会として企画したものであります。

岩手県知事・達増拓也氏祝辞

(代読)宮館壽喜岩手県副知事(抜粋)

開学20年の歳月に費やされた教職員ならびに関係各位の不断の御努力に、深く敬意を表します。岩手県では、希望あふれる岩手を実現していくため、「ゆたかさ」「つながり」「ひと」の3つの視点を重視する新しい長期計画「いわて県民計画」を策定していますが、その中でも特に人づくり、「人をはぐくむ」ことが原点と考えています。宮古短期大学部には、有為な人材を育成し、沿岸・東北地域の振興はもとより、県勢の更なる発展に大いに寄与してくださるものと期待しております。

宮古市長・山本正徳氏祝辞

宮古短期大学部は、岩手県沿岸部唯一の公立大学として開学しました。以来、2000人に及ぶ人材を輩出し、地域の発展に貢献してまいりましたことに対し、市民を代表して心より感謝申し上げます。地域社会・国際社会に貢献する姿勢、生涯学習講座等を通しての教育、学術、文化への貢献、とりわけ約200名の在校生は地域の活力と創造性の源となっております。今後とも、高校生の進路選択の大きな目標として、すばらしい大学の精神を力強く継続し、発展させていかれるようご期待申し上げます。

同窓会長・摂待浩一氏祝辞

先輩のいない学生時代を思い起こせば、本当に懐かしく感じられます。開学以来の20年に1900有余名の卒業生を輩出し、卒業生の中には海外で活躍する方もおります。人と人とのつながりを大切にしていける人材を育成する大学の伝統を守りながら、地域と共に発展されることを祈ります。同窓会はそのための応援をさせていただくことをここに約束します。



**岩手県立大学宮古短期大学部
開学20周年記念式典**
●平成21年10月24日(土)
●開式/午後1時30分
●式場/岩手県立大学宮古短期大学部体育館

- 次 第**
- 開式の辞
 - 式 辞 学長 中村慶久
 - 祝 辞 岩手県知事 達増拓也氏
宮古市長 山本正徳氏
同窓会長 摂待浩一氏
 - 来賓紹介
 - 祝電披露
 - 20年のあゆみ
 - 閉式の辞

10月24日(土)、秋空はすっきりと晴天。この日、宮古短期大学部では、蒼翔祭(宮古短期大学部)に訪れる市民で賑わっていました。ゼミごとに開かれている企画店舗が例年好評で、学生たちはお客様の対応に忙しく働いていました。

蒼翔祭の賑わいを背景に、午後1時過ぎ、なごやかな中にも幾分緊張感も感じられるひととき華やかな集団が体育館に歩みを進めていました。宮古短期大学部開学20周年記念式典に出席される同窓生のみならず、体育館の正面受付には、あでやかな花々が飾られ、会場内は、来賓や同窓生、教員各位ならびに関係者の着席を待つばかり。

午後1時30分、宮古短期大学部開学20周年記念式典の開式が、経営情報学科川島英城教授により宣言されました。

平成2年(1990年)4月、沿岸部唯一の公立大学として誕生した岩手県立宮古短期大学(現岩手県立大学宮古短期大学部)。教員相互の連携と学生の自主性と個性を大切にしている教育の実践を通して、多くの優れた人材を輩出してきました。地域の大学に寄せられる期待は大きく、式典では、中村学長によって全学の新たな決意として「さらなる地域貢献への意欲と覚悟」が示されました。



を称える

太田原 功 先生



【記念講演】
講師 太田原 功 先生
演題 宮古短大の実績を称える

記念式典につき、宮古短期大学部名誉教授の太田原功先生による記念講演が行われました。太田原先生は、本学は平成20年に「大学認証評価機関」から公立短期大学教育の模範的な実践大学として高く評価されたことを述べ、今後は、現行の「自己推薦方式」を拡大して、学ぶ意欲のある学生を模範的に受け入れ、活力に満ちた「学生主役」教育を実施され、全国から学生が集まる学び舎になっていくことを期待しますと、宮古短期大学の進むべき道について熱く語られました。

旧交を温めた祝賀会

(ホテル近江屋)

記念式典につき、ホテル近江屋において祝賀会が開かれました。記念式典に出席できなかった同窓生もかけつけ、久しぶりの交流に旧交を温めることができました。



1 笑顔いっぱいの祝賀会となりました 2 あいさつする中村学長 3 司会を務めた田中宣廣准教授 4 恒例万歳三唱は1期生がリード 5 中村学長を囲んで乾杯! 6 祝賀スピーチをいただいた齋藤有司・宮古商工会議所会頭 7 つきない思い出に会話もはずみず

寄稿 開学20周年 おめでとーございませう。

宮古信用金庫河南支店
澤田奈緒子さん
(平成10年度卒業)



早いもので、私が8期生として卒業してから10年が経ちました。この度、恐縮ですが筆をとることになり、在学当時のことを懐かしく思い出しています。私は、宮古短期大学に入学するまで、パソコンに触れたことがありませんでした。めまぐるしく変わる情報化社会についてゆくには、まずコンピュータの技術を身につけなければならぬと感じていました。当時から100台以上のパソコンが揃い、一

人一台使用できるという恵まれた環境の宮古短期大学は、とても魅力的でした。初めて一台のパソコンを与えられて受けた講義では、パソコンの持つ可能性を感じたものです。

そしてもうひとつ、学生生活の中で忘れられないのが、ゼミでの活動です。私は、日本語のゼミで方言について学びました。先生とゼミ生で実際に方言について調査、研究を行い、地元宮古の方々から方言や宮古について熱く語っていただきました。みなさん魅力的な方で、改めて宮古という地域の良さを感じ、後々宮古で就職するきっかけとなりました。今まさに宮古短期大学部生として勉学に励んでいる皆さんは、充実した時間を過ごしているでしょうか。宮古短期大学部に入学したことで出会えた仲間、先生方、地域の皆さんとの2年間を、ぜひ大切にしてください。いろいろな刺激を受け、学び方、ものの見方が大きく広がることでしょう。そして、何事にも興味、目的意識を持ち、成長していった下さい。今年で20周年を迎えた母校が、これからも、地域のリーダーとなる学生を多く育成されることを期待しています。地元宮古で応援しております。

蒼翔祭(宮短大学祭)2009のテーマは「Change～宮短革命～」。盛りだくさんの趣向をこらしたサークル企画やゼミ企画が用意され、学生と来場者が一緒に楽しみました。開学20周年を迎えた今年は、記念展示室が設けられました。



沿革 「自然」「科学」「人間」が調和した 新しい時代の創造を願って

- 1988年(昭和63年)
 - 2月 短期大学整備事業を新岩手県総合発展計画後期計画で策定
 - 7月 短期大学開設準備委員会を設置
- 1989年(平成元年)
 - 12月 岩手県立宮古短期大学設置認可
- 1990年(平成2年)
 - 4月 岩手県立宮古短期大学開学(経営情報学科) 高橋清が初代学長に就任
 - 岩手県立宮古短期大学開学式・第1回入学式(101人)及び竣工式挙行
 - 9月 短大スポーツ施設の一般開放がスタート
 - 10月 宮古短大オープンカレッジ開始 学園祭「蒼翔祭」を開催
 - 11月 開学記念植樹祭(ソメイヨシノ170本)を実施 産・学・官・民の三陸地域総合研究センターが発足
 - 12月 初の海外研修を実施
- 1992年(平成4年)
 - 3月 第1回岩手県立宮古短期大学卒業式(95人)挙行
 - 4月 宮古短大同窓会が結成
 - 7月 三陸海の博覧会が開幕、学生がコンパニオンで活躍
 - 8月 全国公立短大社会科学系学長協議会を本学で開催
 - 12月 第2回学生海外研修を授業科目として実施
- 1993年(平成5年)
 - 9月 中国・煙台市視察団が本学視察、宮古市と友好姉妹都市締結へ
- 1994年(平成6年)
 - 5月 財団法人三陸地域総合研究センター発足
- 1995年(平成7年)
 - 4月 棚橋五郎が第二代学長に就任
- 1998年(平成10年)
 - 4月 岩手県立大学開学に伴い、岩手県立大学宮古短期大学部に改称
 - 7月 三陸海岸縦断走るセミナー開催
- 2000年(平成12年)
 - 4月 太田原功が第三代学長に就任
- 2002年(平成14年)
 - 1月 広報誌「宮短にゆーす」発行
 - 4月 「地域総合講座」開催
 - 7月 キャンパス見学会開催(以降、毎年開催)
 - 10月 生涯学習講座開催(以降、毎年開催)
- 2003年(平成15年)
 - 1月 出前講座実施(以降、毎年開催)
- 2004年(平成16年)
 - 1月 安否確認システムを構築
- 2005年(平成17年)
 - 4月 岩手県立大学が公立大学法人岩手県立大学に移行 谷口誠が第四代学長に就任
- 2009年(平成21年)
 - 4月 中村慶久が第五代学長に就任
 - 10月 開学20周年記念式典・記念講演・祝賀会開催

同窓生 メッセージ

■ 舘洞 瑤美さん(13回生)



学生時代は、よく笑い、よく食べ、よく眠った！地元で通える大学で良かったと両親に喜んでもらいました。親孝行できたかなと思います。

■ 赤沼 大助さん(15回生)



宮短から4大への編入学をめざし実現しました。宮短の自由な校風がおもしろかった。後輩のみなさん、よく学びよく遊んで人間の幅を広げましょう。

■ 沼崎 千春さんと
角森 京子さん(10回生)



開学20周年おめでとーございませう。私たちが入学したころは、施設も新しく環境も良く、食べ物が美味しかったことを覚えていきます。ゼミの課題を考えている時間が楽しかったな。ほんとうに楽しい大学時代でした。

■ 工藤 進悟さん(1回生)



できたばかりの大学で、初めての独立生活を送りました。新しい校風を自分たちが創るんだと意気込んでいました。宮古市の街のサイズが、学ぶ環境としてちょうどいいと思います。あれから、もう20年経ったのだと感慨もひとしおです。

■ 金澤 俊吾准教授と
17回生のみなさん

(前列左より藤森さん、山崎さん、三浦さん、須貝さん、高野さん、佐々木さん、寺長根さん、赤沢さん、メッセーじは高野辰也さんより)

内陸から入学したので、海と緑のある静かな町・宮古市が好きになりました。宮短の良さは、なんと言っても先生と環境の良さです。高校生よ来たれ宮短へ！



海も山も大好きだった 幸丸教授

山川 ● 県大広報誌「IPU」学生企画コーナーとして始まったトークセッションも第3回目となりました。過去2回の経験を生かした活発な対話となることを願いつつ、今回は幸丸教授をお迎えしました。
幸丸 ● 願いつつですか？（笑）。活発な対話を私も期待しています。自己紹介から始めましょうか。

菊池 ● 総合政策学部の環境コース4年の菊池です。豊島正幸教授のゼミでダム建設と河川の管理というテーマで卒論の制作を進めています。

山川 ● 私は相談員（ケースワーカー）を目指して社会福祉学部で学んでいます。3年生です。最近実習で玉山地区を訪ね、人を援助するって大変だと改めて思いました。大変だけれども、一人の人の対して深くつきあっていけるということが相談員の生きがいであり、やりがいなのだと思っています。
幸丸 ● 大事なことは、人間とのつながりということだね。菊池くんの卒論は順調かな？

菊池 ● はい、北上市出身なので地元である和賀川を取り上げています。ダムができて流量をダムがコントロールしているようです。土砂の堆積や河床低下がどうなっているかも調べています。
幸丸 ● 二人とも地域の現場に出ているんだね。

菊池 ● 先生が環境を意識するようになったのはいつ頃のことですか。

幸丸 ● もともとは大学院を修了してすぐにも研究者になりたかったのです。です

幸丸 ● 環境庁入庁後、国立公園の管理やレッドデータブック編纂、野生生物保護などを担当することになりましたが、最もというわけではないけれども、最初に関わった屋久島は印象に残っています。屋久島の初代の管理官（レンジャー）として環境保護を考えることになりました。当時、屋久島は屋久杉を伐る開発のまっただ中。私が行ったのは昭和50年代ですが、保護運動と伐採推進が完全にぶつかりあっていた。環境保護と開発という問題は今なお解決の難しいテーマですね。その後、屋久島は環境保護へと向かい、世界遺産にまでなったわけですが、それ自体はすばらしいことだけれども、かつて環境を壊した事実を誰も口にしながらない。都合の悪い過去を封印している。それではいけないと思うのです。失敗の過去を検証することで未来に資するということがあるはず。失敗から学んで未来を考える失敗学があってもいい。

想像力がなければ 環境を守ることができない

菊池 ● 先生、不都合な真実って本当ですか？

幸丸 ● ゴアさんのドキュメントのこと？誰にとって不都合かはともかく、環境問題ということなら真実だろうね。問題は、環境問題が真実かということより、環境問題を問題として真剣にとらえることができない人間の意識に問題がある。

山川 ● なんだか禅問答みたい（笑）。

幸丸 ● つまりね、環境問題、特に地球温暖化は生活習慣病みたいなものなんだね。

菊池 ● 生活習慣病ですか？

が、私が学生の頃は大学紛争の時代で、事情は複雑ですが、研究職になかなかないということがありました。大学院修了を迎える直前ぐらいかな、環境庁ができて国立公園の管理を担うことになりました。それなら自分でも務められそうだなと思ったのが実務として環境に関わる始まりかな。

山川 ● 高校時代から環境をなんとかしたいというお考えもあったのですか？

幸丸 ● 東京の下町で育ったんですが、東京湾にはまだ干潟があって、子どもの頃

社会にプロテストする気概をもとう！

～問題意識を培う想像力と実践～

教員と学生が身近な話題から現代社会の問題まで自由に話し合うトークセッション。
講義では聞けない疑問、珍問なんでもありの学生企画コーナーです。

特集2 トークセッション

教員と
学生による
対話集 Vol.3

Link Web IPU

Cast

菊池茂・総合政策学部4年
Kikuchi Shigeru

山川裕香・社会福祉学部3年
Yamakawa Yuka

幸丸 政明・総合政策学部教授 副学長
Komaru Masaaki

は海で遊びまくっていたんです。高校になると山歩きもして、海も山も大好きだったわけです。昭和30年代、遊び場である海がどんどん汚れていくのを見ていました。いやおうなく環境問題に関心を持つようになっていったわけ。

都合の悪い過去を 封印してはいけない

菊池 ● 先生にとって最も印象に残る地域はどこですか。



東京大学大学院農学系研究科（博士）林学専門課程単位取得満期退学。環境庁国家公務員上級甲造園職として環境庁入庁。国立公園の管理、自然環境基礎調査、レッドデータブック編纂、野生生物保護などを担当。東北地区国立公園・野生生物事務所所長、環境庁自然保護局調査官、ハワイ東西センター客員研究員を経て現在本学の総合政策学部教授、副学長。（財）岩手生物工学研究センター理事／農学修士／研究領域：生物多様性保全のための生態学的評価手法、自然保護地域設計管理手法／担当科目：環境設計管理論、環境政策論、景観論、環境法など。



ネパールにおけるエコツーリズム調査の1コマ
(2003.3 ネパール・マナン地方の水河湖のほとりにて)



学生ボランティアセンターとアシストに加入。盛岡西警察署と協力し少年の非行防止活動や児童センターでのボランティア活動に参加。3月の卒業を控えて目下卒論制作に奮闘中。



富山県砺波市出身。学生ボランティアセンターが企画実践するホームレス支援活動のプロジェクトリーダー。高齢者介護のケースワーカーを目指している。

社会にプロテストする 視野と意欲をもって学ぼう

菊池 ● 先生のお話を聞いて、問題意識に必要な想像力は足りないかもしれないなと思いますね。

幸丸 ● 県大生には、ぜひ、想像力を豊かにしてほしいな。そして、時には社会にプロテスト（抗議）することもしてほしい。社会への関心を広く持ち、自分にとってでなく他人や社会にとって理不尽なことがあれば、明確な理論的考え方に基づいてプロテストする気概と行動力をもって欲しいのです。また本学の学生にも県民

の期待や要望がむけられていることを自覚して欲しい。学生と教員が、この大学をどうするのかを話し合うことがあってもいいね。

山川 ● サークル活動のための補助とは別に、学生活動のための研究補助があったらいいなと思います。

幸丸 ● 正しく必要な要望も、主張しなければ形にならないよ。大学は、学生のプロテストや主張する志に期待しているんです。

菊池 ● 県大生よ正しく主張せよと励まされていたところでお願いします。ありがとうございました。

幸丸 ● 社会が痛みとして感じるまでに時間がかかるんだな。生活習慣病は、自覚症状が出た時にはすでに手遅れ。社会に現実的な危機感がなければ、世界的な環境問題の解決に向けた協力は望めない。そのために必要なのは想像力です。想像力が人を動かす。想像力がなければ、将来世代や他の生き物の痛みを痛みとして思いやることが出来ないでしょう？

社会福祉学部⑤
秋田県教員採用試験(高等学校福祉)

同じ夢に向かって努力する仲間を支えられました



アドバイス
今日の前にある目標に対して自分ができていることを素直にがむしゃらに頑張ることが大事だと思います。就職が厳しい今の社会では“努力=合格”には必ずしもならないこともあります。しかし、ゲームでも一生懸命やれば次の道が拓けてくるのではないかと思います。

In My Case
社会福祉学部4年
中屋 愛さん

就活ステップ

- 3年生の前年 これまでの教員採用試験(高等学校福祉)の実施状況を調べる
- 3年生の秋 教員採用試験に向けてのテキスト(教職教養・一般教養)を購入するも社会福祉学部は実習が入るため、ほぼ勉強で済む。公務員講座を受講
- 4年生の春 本格的に受験勉強をスタート(問題集購入)。教員採用試験情報を調べ始め、受験する都道府県の実施要項・志願書を取り寄せる
- 4年生の夏 教員採用試験に挑戦→1次:7月、2次:8月~9月

私の就職対策

就 職支援センターでの面接練習に真剣に取り組みました。特に二次試験では、模擬面接で行った圧迫面接が大いに役立ちました。本番での面接官の厳しい質問も想定内だったのです。

就活体験メモ

全 学部を合わせても教職を履修している学生は少なく、社会福祉学部でも現4年生は3名しかいません。その中でも、教員採用試験を受験したのは自分だけでした。しかし、今年度「公民科教育法」を履修したことで総合政策学部とのつながりができ、短期間で教員採用試験に臨むための勉強法、試験に対するノウハウを数カ月間で指導していただきました。

同じ夢に向かって一緒に努力をする仲間ができ、精神的な面で支えられ、さらに「自分も頑張らなければ!」という刺激にもなりました。

お世話になった就職支援センター

模擬面接でお世話になった就職支援センターの菅原則彦さんをお訪ねしました。菅原さんは、私たち学生の良きアドバイザーです。就職支援センターが行っている就活サポートのなかでも模擬面接は、学生の口コミから人気が高まり、年々希望者が増えているそうです。就職支援センターの情報収集力には定評がありますが、私が最もすごいと思ったのは、「学生就職活動報告書」です。先輩たちの就活の実際を資料として公開しています。きっと役に立ちますよ。



就職支援センターの菅原さんと鎌田さん



支援センター制作の就活マニュアル

OBメッセージコーナーも見てね

学生就職活動報告書コーナー

就職支援センター活用のススメ

就職支援センターが学生一人ひとりの進路選択をきめ細かくサポートしています!

利用できる主なサポート

- 求人票の閲覧~大学に寄せられる求人情報をチェックしよう。
- パソコンで情報収集~さまざまな業界や企業の情報を収集しよう。
- 就職データの閲覧~先輩たちの就職活動の経験は価値ある情報源。
- 関連図書の閲覧~就職関連の雑誌や書籍を置いています。
- アドバイス~エントリーシートの書き方など、就活の実践に向けたアドバイスが受けられます。
- 個別面談~学生一人ひとりの相談について、随時、専任スタッフがアドバイスを行っています。模擬面接も実施しています。

※就職支援センターは、就職活動を始める学生だけでなく、1・2年生など誰でも利用可能です!

就職サポートスケジュール(四大生の例)



※専門家による「就職・公務員対策講座」を開講
1年次から教養基礎力養成講座などを受講できるほか、論文対策や人物試験対策など年間を通して実践的なメニューが組まれています。
※短大生にあっては、四大生の3年次以降と概ね共通のスケジュールとなります。

看護学部⑥
岩手医科大学附属病院



ぜったいにここで働きたいという熱意を忘れませんでした

In My Case
看護学部4年
鎌田 朋実さん

アドバイス
就職活動は最後まで、学ぶ場なのだと思います。今ままで自分がやってきたことに自信を持って、リラックスして頑張ってください!

就活ステップ

- 4年生の春 大学で行われた病院等研究セミナーに参加
- 4年生の春 救急医療に携わろうと色々な病院研究をスタート
- 4年生の秋 岩手医科大学附属病院説明会に参加
岩手医科大学附属病院インターンシップに参加
面接に向けて猛練習
- 4年生の秋 筆記試験に向けて猛勉強
- 4年生の秋 合格通知

私の就職対策

大 学の学食で6月に行われた病院等研究セミナーにおいて、県内外の多くの病院の説明を聞くことができました。また、就職支援センターに模擬面接をお願いしました。本番さながらで、すごくなりました!!



特集3 県大生のシューカツ☆紹介します!
IPUそれぞれの就活STORY

戦後最悪の就職氷河期といわれて久しい昨今ですが、県大生は、めげることなく果敢に未来に向かって、就職活動(就活・シューカツ)に挑戦しています。就職内定が決まった県大生が就活の体験談をお届けします。

新たな出会いやチャンスを探る
人に理解されたいと誰もが思いますが、就活では相手(企業・団体)を理解することから始まります。多くの人に会い、良話を聞き、自分で行動して情報を集める工夫が大切です。就活では情報収集が最も重要といわれています。しかし、それだけでは十分ではないようです。何が求められているのでしょうか。県大生の就活体験談にそのヒントがあります。
社会の荒波にめげず、果敢に挑戦を続ける県大生にとつての就活は、自分を成長させるチャンスでもあるのです。

就活体験メモ

私 は、インターンシップや病院説明会の時に、一番前の席に座って質問したり、積極的に意見を述べたりしていたので、面接の時に看護師さんが私の顔を覚えていて下さいました。インターンシップや説明会の時から、自分をアピールすることはとても大切だと思います。

ア メリカで研修した経験から、世界の看護について学ぶことができました。日本の医療をアメリカの視点から見て、いいところ、逆に改善が必要など、多くのことを学ぶことができました。自分自身の考えの視野を広げることができました。自分がどんな看護師になりたいかという考えをしっかりと持つことで、病院研究や、面接に役立ったと思います。

学んだことを生かして



アメリカ研修ホストファミリーと鎌田さん

宮古短期大学部⑨
岩手銀行

面接は「言葉のキャッチボール!」を心がけました



アドバイス

できるだけ早く動くこと。多くの企業の採用試験を体験して慣れておくのもいいでしょう。面接練習を、できるだけ繰り返し、多くすること。そして、自分を信じ、粘り強く活動すること。2年生になったら就活に専念できる体制を整えること。

In My Case
宮古短期大学部2年
小野寺 一恵さん

就活ステップ

- 1年生の冬 就職説明会に参加。
- 2年生の春 各種会社説明会に参加。業種を問わず多数の採用試験を受験。
- 2年生の初夏 岩手銀行を受験し、内定を得る。

私の就職対策

大 学主催の「就職ガイダンス」で1年先輩の「就活体験談」を聞き、危機感を感じ、就活へのモチベーションが高まりました。

就活体験メモ

ゼ ミでの学生どうしの質疑応答で、「質問への答え」や「相手の発言への質問」などを、すばやくできるようになったことが、面接に生かされたと思います。面接は「言葉のキャッチボール!」を心がけました。1年生の9カ月間をがんばったアルバイトで「人と接する能力」を培うことができたことも良かったと思います。「人と接する能力」を生かしたいという気持ちが生まれました。就活では、自分が動かなければ、何も始まらないことを学ぶことができました。

盛岡短期大学部⑩
アート不動産



アドバイス

時には挫折感を味わうこともあるかもしれませんが、自分を信じて前向きに就活すれば、きっといい企業に出会えます。

積極的に会社訪問を行い人事担当者に会いました

In My Case
盛岡短期大学部2年
瀧澤 真由美さん

就活ステップ

- 1年生の夏 県内ホテルでのインターンシップに参加、接客実務を経験
- 2年生の春 企業説明会に参加、県内銀行への就職をめざし企業研究、自己分析
- 2年生の夏 銀行志望から他業種への変更を考え、自分にあった企業を探す。内定企業の情報に注目、直接人事担当を訪問、好印象を得る
- 2年生の秋 内定

私の就職対策

就 職支援センターの模擬面接はとても役に立ちました。また、履歴書の添削や適切なアドバイスをいただきました。フレンドリーな学部の先生に相談できたことも良かったです。

就活体験メモ

大 学生活や今までの人生の間に自分に誇れるもの、がんばってきたものがあるということが重要だと思います。アルバイトでもサークルでも日々の授業のことも、何か一生懸命にやっていたことというのは面接をする際のアピールポイントとなると感じました。私は、最初に受けた企業が第一志望でしたが残念ながら不合格。落ち込んでいる場合じゃないと奮起して、積極的に会社訪問を行い、幸運にも第一志望以上の企業にめぐりあうことができました。直接人事の人と会って企業内容を確認したことが良かったと思います。

総合政策学部⑪ 岩手県庁

状況に左右されない強い意志をもって



アドバイス

地方公務員は決まるのが遅いところもあるので、注意する必要があります。自分だけではなく、色々な方のお世話になって合格したと思うので、周りの人の話を良く聞き、周りのサポートに感謝しながら、親ともきちんと話をし、公務員・民間問わず、強い意志をもって頑張ってください。

In My Case
総合政策学部4年
星井 一希さん

就活ステップ

- 2年生の春休み 公務員試験の勉強を開始
- 3年生の秋 本格的に勉強を開始。予備校に行きはじめる
- 3年生の冬~春 民間に興味があったので民間を受ける
- 4年生の春 民間から公務員試験に集中する
- 4年生の9月 内定

私の就職対策

学 内の公務員試験対策の中での模擬面接が非常に良かったです。

就活体験メモ

得 られた成果として、面接などを通じて自分の良さが自分で少し分かったという事。さらに、面接を通過できたのは自信につながりました。反省点は自己PRがなかなかまとまらなかった事と、もっと色々な試験を受ければ良かったと思うところです。就職支援センターの実施する模擬面接の厳しさは、学生のためという思いが込められていたのだと、今ならわかります。就職支援センターの模擬面接に鍛えられました。

岩手県の事を授業やゼミで取り扱っていたので、岩手県庁を受験する時は、面接や論文などで直接的に役に立ちました。論理的な思考や人前で発表したことなど授業に真剣に取り組んだことが、すべて活かされたと思います。

アドバイス

先輩のみならずはこれから、様々な人から様々なアドバイスを聞くことになると思います。就職活動はこうすればいい、あの会社は良い悪い、面接はこうすれば良い、グループディスカッションの攻略法はこうだなど。私ができるアドバイスのひとつは、人のアドバイスを100%鵜呑みにしないことだと思います。そして、より多くのアドバイスを聞くこと。就職活動は人生のゴールを定めるわけではないので、チャンスがあれば果敢に挑戦してみよう。



ソフトウェア情報学部⑫
株式会社NTTデータ

仲間がいるからがんばれたと思う!

In My Case
ソフトウェア情報学部4年
継枝 研太さん



支えてくれた仲間たち(左より) 継枝さん、佐々木雄喜さん、小澤田貴泰さん、関博之さん。

就活ステップ

- 3年生の11月 業界を絞らず企業研究をスタート
- 3年生の12月 早めに選考を行う企業を見つけて複数企業の一次面接受験(東京にて)。
- 3年生の2月 機会あるごとに東京で就職活動を継続。内定企業受験
- 4年生の4月 就職企業から内々定

私の就職対策

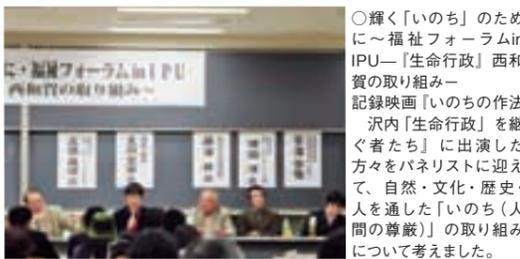
多 くの先輩や社員の方から話を聞いたのが良かったです。

就活体験メモ

私 は主に東京で就職活動をしたのですが、私の仲の良いソフトウェア情報学部の友人もほとんどが東京で就職活動を行いました。就職活動中は常に誰か学部の友人が東京にいたという状況だったので孤独感を感じることもなく、励ましあいながら就職活動に臨むことができました。就活仲間がとても大切だと感じました。

》賑わう「IPU Festa2009~RE:action~」大学祭

第12回目を迎えた県立大学大学祭が晴天の秋空の下、「RE:action」をテーマに開かれました。テーマである「RE:action」には、学生が起こした「Action」で、大学祭に関わった多くの方から「Reaction」をいただける大学祭でありたいという願いが込められています。10月24日(土)～25日(日)の期間中、「東アジア文化比較フォーラム2009」、「輝く「いのち」のために～福祉フォーラム in IPU—「生命行政」西和賀の取り組み—」、ソフトウェア情報学部オープンキャンパスが開催されました。



○輝く「いのち」のために～福祉フォーラム in IPU—「生命行政」西和賀の取り組み—記録映画「いのちの作法」沢内「生命行政」を継ぐ者たち」に出演した方々をパネリストに迎えて、自然・文化・歴史・人を通して「いのち(人間の尊厳)」の取り組みについて考えました。



○「東アジア文化比較フォーラム2009」 「日・韓・中の文化を理解しよう～食と酒と言葉～」をテーマに、本学4人のパネリストと来場者によるトークセッション開催。岩手県立大学・駐日大韓民国大使館・韓国文化院共催。



○ソフトウェア情報学部オープンキャンパス 大学祭期間中に行われたオープンキャンパスでは、研究紹介・体験学習・入試相談会が行われ、高校生のみならず多くの方に参加いただきました

》光るどろだんご作りの指導者を養成

9月27日(日)、学生のレクリエーション&ボランティアサークル「どろんこ隊☆」が、高齢者や保育者を対象とした「光るどろだんご作り指導者養成講座」を開きました。「光るどろだんご」は、近年、子どもを対象としたレクリエーションとして人気が高まっています。



》4テーマについて研究成果を発表

本年度公開講座をしめくくる県立大学研究成果発表会が、11月7日(土)、本学において開催。「心身の健康づくりや福祉」に関する4つのテーマについて発表が行われ、地域に貢献する大学の実績を紹介しました。



》「地域づくり・地域貢献活動セミナー&発表会」を開きました

本学の地域貢献活動を発表する「地域づくり・地域貢献活動セミナー&発表会」が、10月16日(金)、本学において開かれました。教員や学生が「地域と大学」、「地域と学生」をテーマに取り組み事例を紹介、発表後には参加者との意見交換も行われました。



》「第2回岩手看護学会学術集会」開催

10月17日(土)、本学において「第2回岩手看護学会学術集会」(会長・白畑範子看護学科長)が開かれました。学術集会では、「いわてから新たな看護を発信」していこうという決意の下、事例検討、看護教育、看護技術などに関して、研究者や実践現場からの研究発表が行われました。



》学生パフォーマンスイベント「JOY-INT Vol.3」大盛況

岩手県内の4大学(岩手大学・岩手県立大学・盛岡大学・北里大学)に在学中のストリートパフォーマー(ダンス、ダブルダッチ、ジャグリング)36チームが、12月6日(日)、県立大学を会場に集まり、一般県民を対象として躍動感あふれるパフォーマンスを披露しました。

夢を生きる 卒業生の今を知りたい

CAREER MESSAGE

ふるさとで働く幸せを感じています

ミズノ株式会社盛岡営業所 佐藤 志帆さん
●盛岡短期大学部 [平成21年3月卒]

「私が所属するフロント販売課は、スポーツ用品店などの得意先にスポーツ用品を販売する業務を行っています。私自身は、注文を受けた用品のデータ整理や管理が主な仕事です」という佐藤さんは、盛岡市出身です。新人なので覚えること学ぶことが多いという佐藤さんの目の目標は、お客様対応を含めて、「日々学び気づくこと」。

盛岡短期大学部で生活科学を専攻し、「衣」と「住」に関わる専門分野を学んだことを面接試験で熱心に話したという佐藤さん。盛岡短期大学部のフレンドリーな雰囲気が好きで、楽しく学んだことを今でも思い出すといます。

「高校時代から地元で働きたいと考えていました。短大部卒業を迎える頃には、早く学んだことを実社会で生かしたい、働きたいと考えるようになっていました。楽しく学ぶことが出来たからこそ、そう考えるようになったと思っています」

盛岡が大好きだという佐藤さんは、ふるさとで働く幸せを強く感じています。



社会について、人間について考え続けています

川久保病院医療相談員 只野 翔さん
●社会福祉学部 [平成20年3月卒]

精神保健福祉士、社会福祉士の資格をもつ只野さんは、医療相談員として、回復期を迎えた患者さんのサポートを務めています。患者さんに寄りそい、退院後のサポートを含めて、一人ひとりの人生と向き合う仕事に大きな責任とやりがいを感じています。

只野さんは、医療相談員として働き始めてすぐに、大学時代には情報でしかなかった人生模様が、目の前にあることの重大さに気づき、真剣に向き合うようになったと語っています。

「患者さんとその家族のみなさんに満足していただけること。そして、療養生活、入院生活を含めて、患者さんが良い生活ができるよう少しでも力になることを目指しています」

只野さんは、個人の状況を知ることの難しさを感じながらも、情報の収集こそが最も大切だと考えています。医師や看護師と連携しながら、温かいサポートを心がけている只野さんは、社会について、人間について、常に考え続けています。





釜石フィールドワーク

～学生たちが歩いて見つけた「地域の魅力」を発信～

Link Web IPU

県大生が慶大加藤研“キャンプ”とコラボ

岩手県立大学の学生たちは、県内の各地域で、ボランティア活動、温泉街の活性化、グリーンツーリズム活動などに参加し、地域づくりに取り組んでいます。

また、慶應義塾大学環境情報学部に加藤文俊研究室では、学生たちの「よそ者・若者」の視点で、地域資源を発見・再発見し、その街の魅力をポストカードや街歩き音声ガイド、電車の中吊り広告、CM映像などに編集し、地域に還元する取組みを進めています。

今回、慶應義塾大学加藤研究室が進める“キャンプ”の協力を得ながら、「鉄と海のまち・釜石」において、両大学の学生たちの視点で「人」に着目し、地域コミュニティを発見・再発見し、フィールドワークの最終日には、「ポスター展示会」を開催。地域の皆さんとともに人を通じて地域の魅力を発信しました。



●加藤文俊先生のご指導をいただきました



●まとめた内容をみんなに発表



●制作されたポスター「今いちばんしあわせだな。」



●今がいちばん幸せな、お二人です。

■日程 2009年12月11日(金)～12月13日(日)

■場所 岩手県釜石市

[参加メンバー]

- 岩手県立大学 学生ボランティアセンター
社会福祉学部/総合政策学部/地域づくり研究所/研究・地域連携本部
- 釜石市総務企画部総合政策課/企業立地推進本部/釜石市民の皆さん
- 慶應義塾大学環境情報学部 加藤文俊研究室
- ゲスト 木村健世 (アーティスト)

[企画/製作/編集/指導/助言]

慶應義塾大学環境情報学部 加藤研究室
木村健世 (アーティスト)

[コーディネイト・運営]

岩手県立大学地域づくり研究所/研究・地域連携本部
釜石市総務企画部総合政策課/企業立地推進本部



●今回のプロジェクトで制作されたポスター



風堂マンガ

コメント機能を活用しよう!!



土鍋をツールに『Do Nabe net』広がる交流



鍋を囲みながら「アレルギー」「高齢者」「宗教」など、食材に関する課題についてみんなで考えました。

県大学生ボランティアセンターでは、平成20年11月より『Do Nabe net (ドナベネット)』として、土鍋をツールとした地域での交流活動を行っています。みんなで集まってお鍋を「しましょ」という意味の「Do」とネットワークの「net」という名前のおり、地域の方と学生が鍋会という交流の場をとおして様々なネットワークを広げていくことをねらいとしています。

12月23日に滝沢村川前地区で行われた第6回目の会には、相澤理事長や中村学長の参加も含め、学生と地域の方々総勢約60名が鍋を囲みました。鍋は災害時の炊き出しをテーマとしたメニューを用意。冬のスノーバスターズ(地域の雪かき)の活動などについて意見情報交換など行いました。



地域のみなさんと一緒の下ごしらえも楽しいひとときです。

県大に大学生協ができました!! 食堂・売店は1月からオープン☆☆

大学生協(岩手県立大学生協同組合)は、キャンパスの中で店舗や食堂を運営し、学生や教職員の必要とする商品や食事やその他のサービスの提供を予定しています。大学生協では、みなさんからお預かりした出資金をもとにして、食堂・店舗の運営を行っていますので、組合員加入後の利用を原則としています。充実のキャン

パスライフを大学生協が情報発信します。みんなで大学生協を盛り上げましょう。いろんな特典サービスなど、詳しくはホームページをご覧ください。

●<http://www.ipu.u-coop.or.jp/>

